

琉球大学学術リポジトリ

[寄稿]カナダにおけるビール用大麦について

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: 出版者: 南方資源利用技術研究会 公開日: 2014-10-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 島袋, 勝, SIMABUKURO, Masaru メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002016559 |

寄稿

カナダにおけるビール用大麦について

島袋 勝

(オリオンビール(株)名護工場)

今回、カナダ国際穀物協会主催による研修会に参加する機会に恵まれ、2週間に渡りカナダのビール用大麦の現況を見てきた。今回の研修会への参加はカナダ国際穀物協会に関わる穀物輸入業者、製麦、醸造に従事する人々を中心に世界13カ国から33名の参加があった。カナダ側からは政府関係者、製麦会社・穀物関連企業に勤める人々約10名であった。日本からはキリン、アサヒ、サッポロ、サントリー、オリオンの各ビール会社より1名ないし2名の計7人の参加があった。この種の国際的な研修会は3年ないし4年に1回催されているという。

カナダ国際穀物協会とは1972年に設立された組織で、穀物の生産や輸送、流通などの指導を非営利的に行う組織である。その経営資金の60%はカナダ農務省のGrain Marketing Bureauによって賄なわれ、残りの40%はカナダ西部地域農家が会員になっているカナダ小麦局の出資による。

カナダ国際穀物協会の事務所は1973年にウィニペグのカナダ穀物委員会のあるビルディングに移り、私達の研修もここを拠点に行なわれた¹⁾。

忙しい日々の中での突然の出張で、これまでの自分の不勉強さを悔い、自分の知識に不安を抱き、機内に於いては専らカナダの情勢と歴史を読み耽った。にわかではあるが知りえたカナダの情勢と、大麦が導入され普及に至るまでの経過を歴史と絡めて触れたいと思う。

カナダは997.6万km²という広大な土地を有し、ロシア連邦に次ぐ世界第2位の広さを持ち、日本の約27倍に相当する。

現在英女王エリザベス2世を元首とし、M.B. マルルーニーを首相とする立憲君主制の国家政体の中で2700万人の民の生活が営まれている。民族的にはイギリス系29%、フランス系29%、他のヨーロッパ系23%、その他19%である。主な産業別労働人口比率は農業4%、工業・商業52%、サービス業28%である⁴⁾。

カナダという国名が世界史上に登場するのは1534年にフランスの探検家ジャック・カルチュエがセントローレンス川を上り、その流域をフランス統治下に置いた時点に遡るが、その数世紀前にバイキングも到着していたという。

探検船には壊血病予防薬としてビールが積み込まれていたようだが、ニューフロンティアの人々は専ら本国フランスから輸入したワインやブランデーを愛飲した。カナダへの植民地建設は先ずフランスが1608年ケベック要塞を造って先行した。要塞建設に付随して農業も進展していったようであるが、一方イギリスはアメリカ植民地拡張の一環としてカナダに進出し、フランスと争った。

最終的にイギリスが勝利を収め1763年パリ平和条約でカナダ全土の支配権がワイン党のフランス人の手からビール党のイギリス人の手に引き渡された。しかし英国系とフランス系のいさかいは続き、両者の対立緩和を目的に1791年植民地はセントローレンス川上流のアップー

カナダ（現オンタリオ州）と下流のローワーカナダ（現ケベック州）とに二分された。

さていつごろカナダに大麦が持ち込まれたのかその詳細な記録はない。断片的な記録によるとニューフランス（現ケベック州）の最初の州知事でありカナダ建国の父とも言えるサミュエル・ド・シャンプレンが、1606年祖国フランスより種子を持って帰り最初の播種を行い、更に1610年に大量の種子を祖国より輸入したという記事が記載されている。しかし残念ながらワイン党の彼らが行ったその播種が成功したという記録はない。その当時フランス本国の植民地であったカナダでは、本国から輸入されるビールに高い税金が課税されていた。そのため1668年ケベック州に初めてビール工場が興されたが4年後に刑務所にとって替わった。

功を奏することなく終えんを迎えたフランス領内に於ける大麦の普及に対し、ビール醸造の分野に確立された技術力を持つイギリス系移民らは、あまり高品質ではない2種の2条大麦を本国より導入していた。それを各々のブルワリーの近くで植栽、製麦を行い、更にはよりよい品種の選別に努めていた。その中で後にカナダの移民史上最も重要な人物の一人に数えられる事に成るジョン・モルソンは、高品質の大麦を本国から取り寄せモントリオールの農民に無料で配布し、大麦の普及に尽力した。そして1786年に初めてビールを製造し、1792年莫大な遺産を元手にカナダで初のビール会社を設立した。彼の設立したモルソン・ブルワリーズは急速な進展を遂げ、カナダ最大のビール会社に成る。彼はその後銀行、林業、ホテル経営、政界へと進出し、『カナダの一番男』とあだ名されるまでになる^{1, 3, 5)}。

その後のカナダ国内に於いて、大麦の品種や品質がどのような変遷の経路を経たかについては、後の文章の中で折りに触れたいと思う。

さてカナダの概要を理解した所で、飛行機をバンクーバーで乗り継ぎ、最終目的地のウィニペグに向かう。

ウィニペグまでの所要時間は4時間40分、その間にロッキー山脈を越え北アメリカ大陸の中でも春小麦地帯（別名ブレイリー）と呼ばれる穀倉地帯の上を飛ぶ事になる。

写真1. 雄大な景観を持つロッキー山脈

写真2. カナダの穀倉地帯ブレイリー

ブレイリーはアルバータ、サスカチュワン、マニトバの3州にまたがり、最長距離約1500km、最長幅約400kmでカナダの農耕地の約80%を占める。年に5カ月は雪に覆われるという過酷な条件にも関わらず、その平坦で肥沃な土地からは輸出用の高品質な小麦や大麦、菜種、オーツ麦、ライ麦、亜麻種子などが収穫される。

これらの作物は4、5年のローテーションで栽培され、この3州で収穫される穀物量はカナダ全体の74%に相当する。農家の規模も一軒当たり312ヘクタールとカナダの平均の4倍にあたる¹⁾。

7月20日月曜日、研修会の受付を終え穀物委員会のスタッフ、受講生の紹介の後いよいよ講義が始まった。

研修は前半が講義中心で、中頃に入りカナダ西部を移動して各施設を見て回り、後半研修会

のまとめ、発表会、そして研修会の終了レセプションなどがおこなわれた。研修内容については日程的に前後する事があるが、私なりに理解しやすいようにまとめた。

写真のエレベーターは25基のサイロを有し、その全容量は約6500トン、1時間に163トンの搬入能力がある。エレベーター内には鉄道が敷設されており、1時間に272トンの搬出能力があり、24時間搬出が可能であった。

現在カナダでは年間1249万トン（1980年以降の10年間平均）の大麦が収穫される。その需要と供給の詳細について表1に記す³⁾。

表1 大麦の供給と消費

写真3. 研修会参加の各国の面々

まずは私達が初日に訪れた穀物集積所から紹介する。収穫された穀物は農家が各自で所有しているトラックでエレベーターと呼ばれる穀物集積所に運ばれて来る。

過去10年間の供給量をみた場合、大麦の生産量に増減の傾向は見られないが、収穫量はその年の天候に左右されているようだ。一方需要面では飼料としての割合が増えつつある。

大麦の中でもモルト用大麦は下記の様になっている（表2）³⁾。

さてイギリス領内に於いて普及してきた2条大麦は、当地の過酷な気候条件やその品質、耐病性の関係でやがてその座を6条種に譲る事になる。

因みに6条種は2条種に比べエキス分は低いがアミラーゼ力が特に強い。その為副原料の使用量が多いアメリカンタイプのビールに適して

写真4. カナダ各地に点在するエレベーター

表2 モルト用大麦の供給と消費

いる。

現在ではカナダの南部地域と北アメリカで主に栽培されている。

しかしこれまで醸造技術者達が追い求めてきた酵素力の高い、そして溶けの良い品質から適度な酵素力と溶けを持ち、低蛋白質の品種が求められるようになり、再び2条種の割合が増してきた^{1, 3)}。

現在日本はカナダから年間82.5万トン（輸出量の19%）の大麦を輸入しており旧ソビエト連邦に次いで第2位の位置にある。更に麦芽に焦点を絞ってみると、ここ数年17万トン前後を輸入しており、オーストラリア（15万トン）を抜いて第1位の位置にある。おそらく今後もカナダからの輸入量は増えるであろうし、逆に日本

写真5. 6 条 麦

写真6. バンクーバの風景

側からは品質に対する要求が増々高く成るであろう。

研修会を終えて

国家、民族、習慣、言葉の違いはあるものの、英語というひとつの言葉で生活を共にしてきた2週間、日頃使う事のない言葉で互いの意志を確かめ合うのだからかなり無理がある。しかし、それは相手を理解しようと努力する気持ちがあれば乗り越える事が出来ることがわかった。

最後に、今回このような貴重な機会を与えて下さいましたオリオンビール株式会社に対し厚くお礼を申し上げ、以上を持ちまして研修の報告を終えたいと思います。

参考文献

1. 研修会用テキスト
2. Statistical Handbook 91, Canada Grains Council.
3. Malting Barley Improvement in Canada, Canadian Grain Commission.
4. Imidas 最新ワールド・アトラス 1989, 集英社.
5. エアリアガイド・カナダ 昭文社.